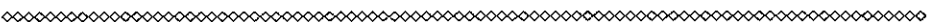




《シリーズ》我が社、こんなこともやっています

## モバチュウが繋ぐ国際車いすテニス大会

日本コムシス株式会社



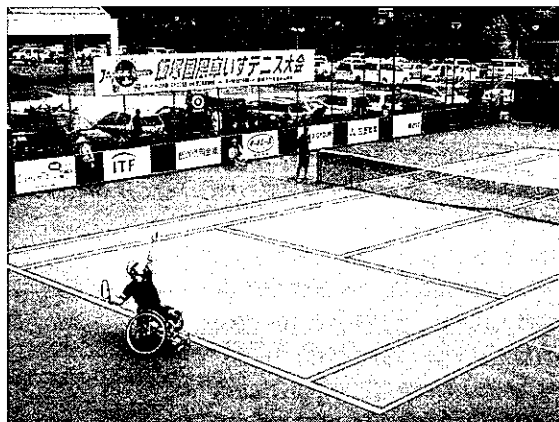
日本コムシス株式会社は1951年に設立し、「有線ネットワーク」や「無線ネットワーク」の構築を中心に事業を展開し、通信インフラの整備を行ってきました。創業以来60年間で培った技術力を活かし、平成22年5月12日(水)～5月16日(日)の日程で開催された「JAPAN OPEN 2010(飯塚国際車いすテニス大会)」において、NPO法人STANDが取り組むインターネットライブ中継「モバチュウ」に関わる技術支援活動を行いました。

### 1. 飯塚国際車いすテニス大会とは

「JAPAN OPEN(飯塚国際車いすテニス大会)」は、1985年の第1回大会に始まり、今年で第26回大会を迎えることとなりました。なお本大会は、以下の目的のために行われています。

- ①車いすテニスを通じ日本国内および外国の身体障害者間のスポーツ交流・相互理解を深めること
- ②車いす障害者の基礎体力・精神力の向上をはかり、障害者に勇気と希望を与えること
- ③社会に参加する意欲を大いに喚起すること

長期にわたる開催により、2004年にはITF(国際車いすテニス連盟)から公認を受け、「JAPAN OPEN」に昇格しました。「JAPAN OPEN」は、世界4大会に次ぐスーパーシリーズ(SS)に格付けされる大会で、現在では世界各国の選手が集まり、技量を競う大会に発展しました。今年の本大会には、世界ランク1位の国枝慎吾選手をはじめ、国内外100名以上の選手が参加しました。国枝慎吾選手は男子シングルスで5連覇を達成し、車いすテニス競技への関心がさらに高まる結果となりました。



飯塚国際車いすテニス大会

### 2. 支援活動の内容

今年度も大いに盛り上がった同大会において、日本コムシス(株)九州支店は、昨年の第25回大会に引き続き支援活動を行いました。NPO法人STANDがNECと協働により実施したインターネットライブ中継「モバチュウ」を行うため、会場内の配線を担当しました。NPO法人STANDは、障害者スポーツの振興を目的に、車いすテニスだけでなく車椅子バスケットボールや電動車椅子サッカーなど、様々な障害者スポーツで「モバチュウ」に取り組んでいます。

「モバチュウ」は携帯のテレビ電話機能やビデオカメラ、Webカメラなどを使ったインターネットライブ中継で、携帯電話で撮影し発信する場合には、電源やインターネット環境がない屋外からでもライブ中継が可能です。今回の大会では、ビデオカメラを使用し、期間中男子・女子シングルス決勝戦、男子ダブルス決勝・準決勝戦の模様を「モバチュウ」で映像配信を行い、映像を公開していたホームページのアクセス数は1か月で約4万件を超えました。

日本コムシス(株)は同大会が無事運営され、より多くの方に見て頂けるように心がけて支援活動を行いました。活動内容としては、事前準備としてADSL回線の帯域調査を行い、スピードテストによる回線速度測定をリハーサルを含め数回行いました。中継が行われた2日間の平均回線速度は、ADSL回線は(下り)846k(上り)626k、モバイル回線は(下り)714k(上り)501kという結果でした。本部事務局からライブカメラ設置台と報道ブースへ、それぞれ約60mあまりLANケーブルを配線し、接続設定後、準備完了です。

大会中は設備機器等に障害が発生した場合に備えて会場に常駐したおかげで、いくつか障害は発生しましたが、映像配信に影響を及ぼすことなく対応できました。大会後には、配線の撤去作業などを行い作業完了となりました。

事前に行われた念入りな配線ルート確認作業のおかげで、配線作業当日はスムーズに進みましたが、工程には屋外作業や高所での配線作業や仮設足場の間を通すような狭い場所での作業もあり、気の抜けない作業でした。担当の現場監督の「せっかくの大会に、万に一つでも事故が起きて放送ができないということがない様に気をつけました」のコメントからも分かるように、担当者全員が細心の注意を払いながらも会場的美観を損ねないように配線を設置、積極的に支援活動に参加しました。

### 3. 今後の日本コムシスとして

同大会は、昨年度よりのインターネットライブ中継開始やTVでの紹介、マスコミ関係者の増員などもあり年々大会規模が拡大しています。大会規模が大きくなり、会場の状況の変化やインターネット中継配信の方法、対応する技術は変化していくと思います。そうした中、日本コムシス(株)も、通信インフラ整備などの事業に直結する高度な技術を活用しながら、今後も変わらない支援活動を行いたいと考えています。

日本コムシス(株)では、日本の通信ネットワークを下支えしてきた技術を活用しながら、全国各地の事業所で地域社会と密接した活動を行っています。今回の九州支店での支援活動をはじめとする多様な取り組みを通じ、地域社会の一員として、環境保全や地域活性化など、地域に貢献できる活動をすすめていきたいと考えています。

地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、「人と人、人と社会がより豊につながる社会づくりに貢献」を実践していきます。

(明経コミュニケーション誌編集委員 村田 健一(日本コムシス(株)))